

小学生の見守りとサポートの 「放課後カフェ（放課後りんぐ）」立ち上げ



特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ

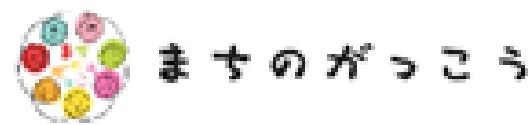
発表者

篠原 唯花 (松山大学経営学部4回生) 令和6年度リーダー

志田 蒼衣 (松山大学人文学部3回生) 令和7年度リーダー

堀田 真奈 (特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ)





休日子ども
カレッジ

子どもの「そだち」をはぐくみ、親の「ハタラク」をささえる

小学生の長期休暇預かりプロジェクト。
愛媛県子どもの愛顔応援基金補助金と松山市補助金を活用して、
1日40～60人の子どもたちと大学内で過ごす官民学の児童クラブ。
年間のべ3000人のこどもたちと、
ボランティア登録している大学生約120名、支援スタッフ25名。



日本のことどもは 先進国の中で最も 孤独感が強い

『孤独を感じることはあるか』と15歳のこどもに質問したところ、『はい』と答えた割合は29.8%と日本の子が最多。2位のアイスランドの10.3%の約3倍と突出
(2007年ユニセフレポート)

紐づくデータ

- ・テレビやタブレット・スマホを見る時間が長い.....48%
- ・同世代のこどもと触れ合う機会が少ない69%
- ・同居家族以外の大人と触れ合う機会が少ない ...79%

国立成育医療研究センター調査データより



孤独が子どもの成長に与える影響

- ①食欲がなくなる（または偏食になる）
- ②不眠
- ③きびきびと行動できなくなる（好奇心がなくなる）
- ④学習への意欲がなくなる

人口減少、少子化、環境変化による
「仲間」「時間」「空間」の消失、また
子どものコミュニケーション能力・体力の低下、
シチズンシップの低下という危機的状況

だからこそ、
「居場所」と
「人」が必要！

なぜ私たちがこれをするのか？

「地域の子どもたちの何かの役に立ちたい」
「地域の居場所はどう作ったらいいのでしょうか？」

まちのがっこう事業（休日子どもカレッジ）の関係者や大学生からの問い合わせ



（御礼）昨年度のこの助成金にて、「居場所の必要性」についての勉強会や
実際の居場所へのインタビュー、学生の地域活動の伴走をおこないました



松山大学4-ringsメンバーより「小学生の居場所づくりをしたい」と相談受ける



まちのがっこうの必要性を感じ、作ってきた私たちが
場所をつくりたいと思っている人の伴走をし、地域課題の解決の輪を広げる

取り組んだことは

① 「放課後カフェ」の立ち上げと実施（一緒にやってみる）

② 子どもの関わりについての勉強会の実施

子どものトラブル等への関わり方や、今の子どもたちの育ちの状況など、知識習得の機会を得る

放課後カフェの運営として参加できる大学生の募集や交流会実施



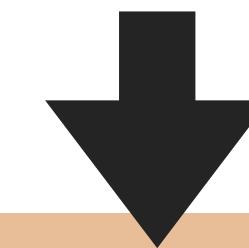


- 松山大学、愛媛大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学の学生で構成されているボランティアサークル。
- 約190人で活動しています！

4-Ringsの主な活動

- 清掃課
- 県警課
- 地域課

城山公園清掃
自転車施錠調査
こども食堂など福祉活動



- 「放課後りんぐ」を4-Ringsの看板活動にしたい！
- 小学生の居場所づくりをしたい！

「放課後りんぐ」立ち上げの背景

地域との関係が希薄

自由に遊べる環境がない

高学年は児童クラブに入れないことが多い



期待される効果



学生と子どもの交流する場

松山の地域活性化

学生自身の成長と子どもの孤立防止

2024年度の主な取り組み内容

放課後りんぐの地盤づくり

- 6月 メンバー募集
- 7月 小学校訪問
- 8、9月 休日子どもカレッジ参加
- 9月 小学生との関わり方を学ぶ勉強会を開催
- 11月 松山大学学祭参加 (4-Rings として)
- 通年 ミーティングの実施



「放課後りんぐ」開催

清水公民館にて、3回実施



10月 ハロウィン借り物競争

12月 クリスマスツリーをつくろう

2月 鬼のお面をつくろう

申込み欄			
※保護者の同意が必要です。申込用紙に必要事項を記入して当日持参してください			
児童氏名	保護者電話番号	—	—
児童氏名	保護者電話番号	—	—

申込み欄			
※保護者の同意が必要です。申込用紙に必要事項を記入して当日持参してください			
児童氏名	保護者電話番号	—	—
児童氏名	保護者電話番号	—	—

申込み欄			
※保護者の同意が必要です。申込用紙に必要事項を記入して当日持参してください			
児童氏名	保護者電話番号	—	—
児童氏名	保護者電話番号	—	—

やってみてよかったこと・感じたこと



地域との関わり

小学生や公民館や先生など
大学生の普段の生活では
関わることが少ない地域の方との
交流が増えた。

居場所づくりに貢献

実際にリピートで参加してくれる子
や、次の開催を楽しみにしてくれて
いる子がたくさんいた。
宿題をしたり、小学生同士でゲーム
をしたり、自由にリラックスして樂
しめる居場所ができたと感じた。

2025年度メンバー構成

・1年生 10人 　・2年生 2人 　・3年生 5人 **計17人**

[役割]

- ・全体リーダー：全体の指揮。状況を見てそれぞれの役割の人に指示を出す。
- ・渉外：小学校・公民館との連絡
- ・広報：チラシ作成
- ・会計：部費の管理
- ・子供企画：企画を考える

今年度行っていること

ただ場を用意して遊ぶだけじゃつまらない
めったにできないことをさせてあげたい

…→ こどもたちが「実際に体験できるようなイベント」を方針に
季節ごとのイベントを用意



6月



画用紙と折り紙を使ってオリジナルの
紫陽花作り✿

百均で綿やモールなどたくさんの材
料を買って自由にデコってもらった



個性あふれる、様々な紫陽花が完成

中にはコントラストとして黄色い
アジサイを作った子も！

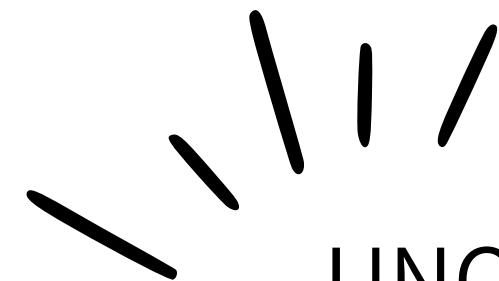


8月

屋台を用意して夏祭り体験

- ボウリング
- 射的
- お菓子釣りゲーム
- 輪投げ

手作りの屋台を楽しんでくれて、
作った甲斐があった



UNOなど、カードゲームで大学生と対決も



10月

ハロウィン

折り紙と風船でお化け作り

モールやデコレーションボールを使って、
自分だけのお化けが完成！
みんなで仮装をしてハロウィンパーティー



やってみてよかったこと・感じたこと



新しい学び

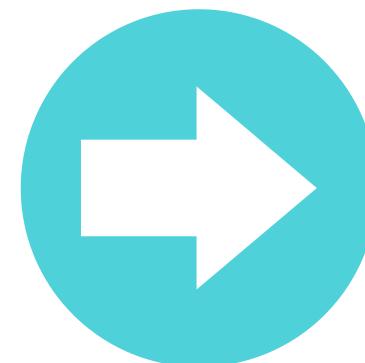
私たちには新しい価値観を持つている小学生と関わることで、大学生の私たちも新しい気づきがある

対応力

公民館の方や校長先生とやり取りをするなかで、大人として対応するスキルが身についた。電話対応の苦手意識がなくなった。

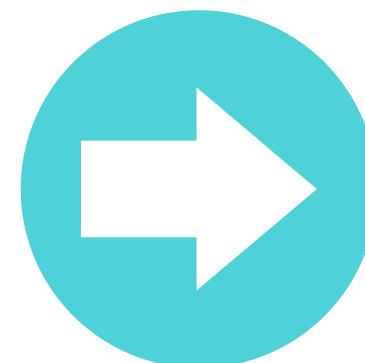
改善点

小学校・公民館・大学生の予定を合わせるのが難しく、日程調整に時間がかかっている



何度も電話をかけなくてもスムーズに日程を決められる仕組みを整えたい

放課後りんぐのメンバーの中にはあまり活動に参加できていない人もおり、メンバーが固定化してきている

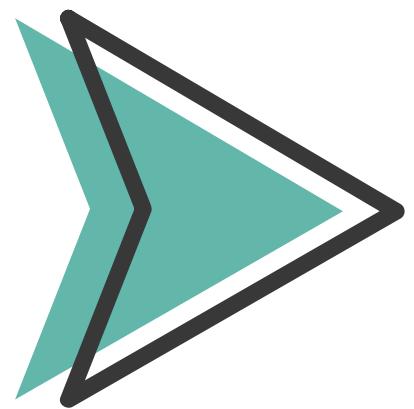


全員が積極的に活動に参加できるような環境づくりをしていきたい

今後したいこと

マニュアルの完備

現在はその都度状況を見ながら対応しているため、今後は誰が見てもわかるマニュアルを整備し、よりスムーズに活動を進められるようにしたい



活動の流れを整理し、チラシを配布するタイミング・注意点、校長先生への電話のかけ方などをまとめることを予定

こんな未来になつたらいいな (県下に波及される効果)

• こどもが孤立しない

⇒ 家でもない学校でもない、小学生のこどもたちが安心して過ごせる第3の場所が増える



• 働く人の生産性向上

⇒ 仕事と生活の両立不安の解消、安心できる場所がある
⇒ 心身の健康につながる



• 「何か地域のために」と 思う人が増える

⇒ 企業では、SDGs目標達成やCSR活動が活性化する
⇒ 学生たちの、シビックプライド（自分の住む街を愛する力）の醸成



この事業を通じて確信し、伝えたいこと

- ✓ 地域のNPO法人としてやってきた活動を、
次につなげていく機会を持つこと（ノウハウを活かす）
- ✓ 大学生は単なる「ボランティア」ではなく、子どもの環境（ロールモデル）
- ✓ 「当事者性」と「関係性」をどう育むか
子どもは地域で育っていく、その「地域」は子どもたちに影響を与える環境である

